

事例研究報告

「自己理解と適切な支援の
受け入れができるための指導」
～不潔恐怖への不安を和らげる～



生徒の実態

- 言葉によるコミュニケーションがとれる
- 挨拶が率先してできる
- 自分の思ったとおりに進まないとき、動きが止まる、口調が鈍く鈍くなる、投げやりになる、等の様子が見られることがある
- 対人に納得いかないことがあると、にらみつける、自分の拳を強く合わせる、頭を強くたたく、等の行為がある
- 他人の行動に関して、同じ行動でも行う人によって受け止め方が異なる



保護者の願い

○医療機関での治療の必要性や治療方法について正しく理解し，必要な治療を受けてほしい

教員の願い

- 約束を守り学校生活を送ってほしい
- 自傷行為，威嚇行為等の問題行動が無く過ごしてほしい



指導の目標

- 自分の現在の状況を知り，医療機関での必要な治療を受け入れることができる
- 登校時に約束を守って学校生活を送ることができる



コンサルまでの現状の記録

- クラス代表挨拶が他の生徒に決まり，集会に参加したくないと申告があった
- 苦手な生徒と同じ教室で授業を受けたくないという申告があった
- 苦手な生徒と同じ教室で授業を受けられないという理由で，休み時間中に机上にメモを残し個別学習室へ行こうとした
- 苦手な生徒に自分の物を触られたので捨てた
- 家庭内でも保護者に対しての暴力や威嚇行為があった
- 6月下旬から他の生徒とのトラブルにより夏季休業前まで欠席することが多くなった



アドバイザーからの助言

- 親への暴力があることについて、担任も必要性を感じているのであれば、強制入院も視野に入れて、保護者を説得していくことが必要
- 本人のモチベーションを大事にして、何かを行う時（約束を設定する、適切な行動の理解等について）は、本人が理解できるように伝えることが必要
- 強迫性障がい（不潔）の改善については、エクスポージャー療法という方法がある。今の対応（人に当たったシューズは捨ててしまう行為を認める）では、脅迫行為を強化してしまうので改善されない



助言を受けての見直し

- 生徒教員相互のルールの確認をする
- 危険行為等があったときにクールダウンの提案やその後の行動をマニュアル化し，本人にわかりやすく伝える



指導の手続

○ルールの確認①

【学校でできること】

- *アルコール消毒や除菌シートを使って消毒できる
- *休み時間に換気できる
- *空気清浄機で空気をきれいにできる
- *道具の共有が難しいときは、自分で用意した物を使用できる
- *扉や机が触れないときは、自分の軍手やビニール手袋を使用できる
- *教室で授業を受けることが難しいときは、別室で授業を受けることができる
- *気分が悪くなったり、イライラしそうなときに、その場から離れてリフレッシュをすることができる

【学校ではきかないこと】

- *他の生徒に対して威嚇行動はできない
- *暴力をふるうことはできない
- *他の生徒の前で、自傷行為を繰り返すことはできない
- *特定の生徒のプリントの受け渡し後に担当は手洗いや消毒はできない
- *突発的に当たったり触れてしまったときに、当たった相手に指導や謝罪を求めることはできない



指導の手続

○ルールの確認②

【人に迷惑をかける行為について】



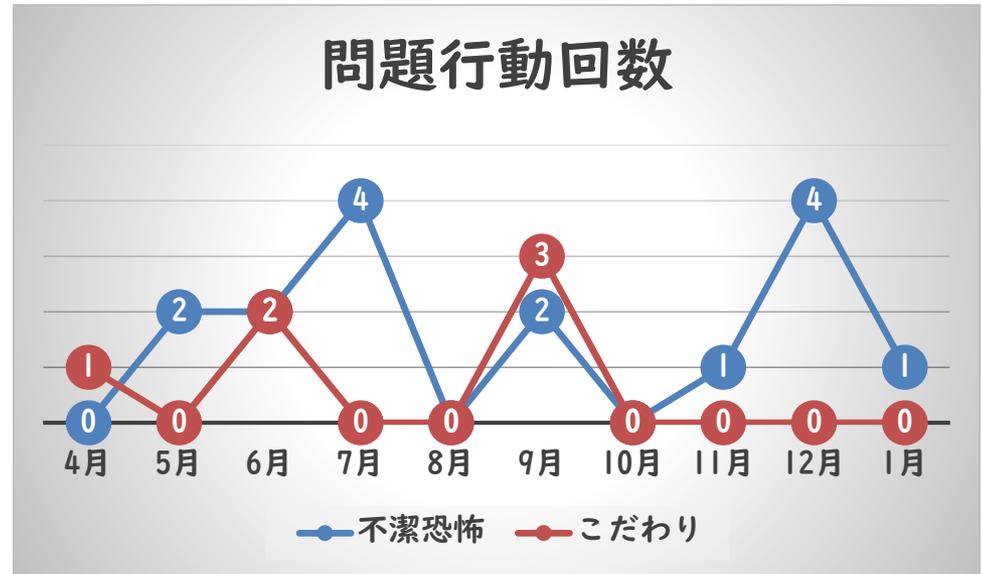
- * 威嚇行動・暴力行為・自傷行為が出たときは、他の生徒と離れた場所でクールダウン
- * 落ち着いた後は、もとの活動には戻らず下校
【早退届は指導者が「落ち着いた（危険行為が20分みられない）」と判断した時】
- * 教室で危険行為をした場合は、別室でクールダウン
- * 無言が続くと自傷・暴力行為に繋がる頻度が高く、無言が5分続いたら、「活動を続けられるか」「別室で活動するか」尋ね、返事がない場合はクールダウンを促す
- * 危険行為がある時は、クールダウンの場所に指導者が同行
【ケガにつながる行動は制止する】



記録方法と記録

○問題行動の記録

ルールの確認後も不潔恐怖に対する問題行動が見られるが、大きく崩れることはなく、落ち着いて過ごせている。

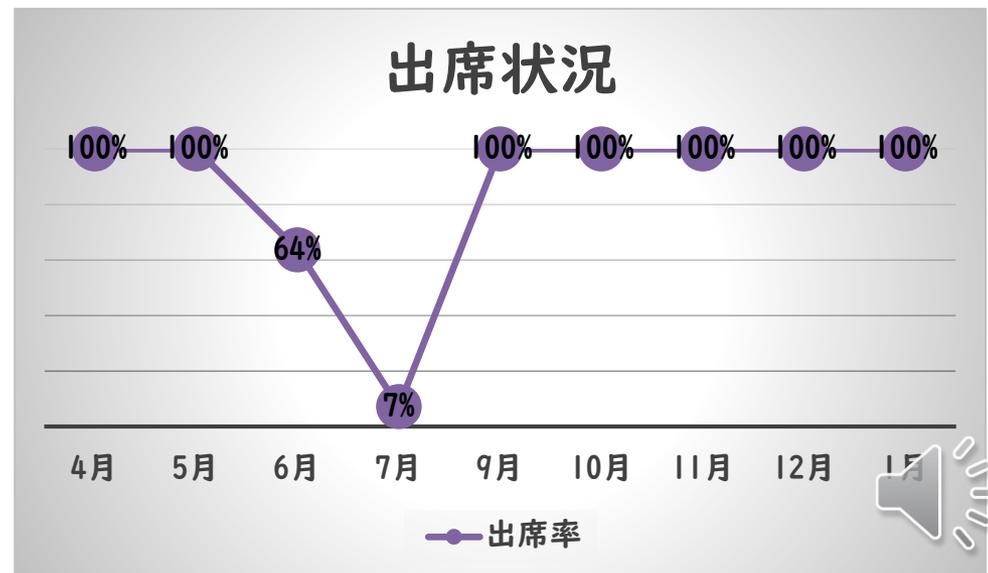


○出席状況の記録

月ごとの記録だけでなく、校時ごとの出席率も記録。問題行動が見られるものの安定して出席できている。

【入院について】

9月より新しい主治医に変わり、関係も良好である。継続して医療との連携を図り、入院体制作りと保護者への働きかけを継続して行う。



指導の成果

- 本人が、主治医の先生とコミュニケーションをとれるようになった
- 治療に向き合えるようになった
- 約束事を示すことで、取り組める活動が増えた
- 問題行動が減り、落ち着いて過ごせるようになった



ここが成功のポイント

- 約束事を決めることにより，できること，できないことを明確にした
- 学校内だけでなく，保護者や医療と情報交換を行った
- 研究チームを作り多くの教員の力を合わせて取り組んだ

